

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200447		
法人名	医療法人 真誠会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字五ノ越32-1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、周辺に芋畑の広がるのどかな雰囲気の中に位置している。利用者は、家庭的な環境のなかで力を発揮し、安心して喜びと自信をもって生活している。また、職員は、認知症ケアに情熱をもった管理者のもとケアに取り組んでいる。地域との交流を推進しており、老人会への入会や地域の消防団と合同で消防避難訓練を実施したり、地域の自主防災組織へ参加したりしている。保育所と合同で行事等を行っている。2か月に1回、運営推進会議を開催しており、事業所の取り組みを発表したり、検討したりして、参加者とともに認知症ケアの質の向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周囲には田畑が広がっており、日当たりも良い。管理者や職員は、理念を共有し、地域との付き合いを大切に考えている。事業所は、地域の一人として老人会や自治会に加入し、利用者とともに行事や清掃活動に参加している。近隣の住民や保育園児の来訪も多く、日ごろから交流を図っている。運営推進会議では、事業所の有する認知症ケアの成果を発表し啓発に努めている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れも行っている。職員は、法人内・外の研修会に参加し、議事録等を回覧することで全職員が内容を共有している。やむを得ず終末期に至った場合には、利用者の状況変化等に応じて関係者間で話し合いを重ね、本人や家族の思いにそった支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。職員の入職時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ミーティング時や関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ確認しあうようにしている。	利用者が、住み慣れた地域の中で喜びと自信を持って暮らすことを、事業所理念として掲げている。管理者や職員は、理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	利用者とともに、近隣の保育所の運動会や毎月の老人会の定例会に参加し、地域の高齢者の方々と交流を図っている。日常的に散歩や買い物へ出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わし互いに行き来する間柄になっている。また、地域の草抜きや清掃活動、ヒマワリ、コスモスの種蒔きに参加している。	老人会や自治会に加入し、地域と交流を行っている。保育所の運動会に出場したり、地区の清掃や資源ゴミ回収、路肩の花の種蒔き等に参加したりしている。近隣の方や保育所の子どもの来訪もあり、双方向的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修や看護学生、高校生、中学生の実習生の受け入れを積極的に行っている。また、老人会や運営推進会議では、認知症や支援のあり方について検討し理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地元民生委員や自治会役員等の地域の方も参加している。現在、事業所が取り組んでいる内容について報告し、アドバイスや質の向上のため双方向的な意見交換を行っている。また、前回の会議で取り上げられた検討事項やアドバイスについて、その経過を報告し、一つひとつ実績を積み上げていくようにしている。	2か月に1回、同一法人の運営する他の事業所で運営推進会議を開催している。事例の発表や事業所の取り組み等を報告し、意見交換を行っている。地元の方からアドバイスを受けて自治会へ加入するなど、地域住民から意見をいただく機会にもなっている。また、同業者の参加があり交流を図っている。	運営推進会議は、毎回併設の事業所内で開催している。参加する家族や地域住民等の負担軽減のためにはあるが、事業所の現状や実状等を直に理解してもらえよう、利用者のプライバシーへの配慮に関する検討と家族や行政との調整を重ねたうえで、なるべく2か月に1回は事業所単独での開催に向けた検討を行うなどとして、より質の高いサービスに繋がれることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月2回、市の介護相談員の来訪があり、利用者や談話や相談、ケア現場の見学等を行っている。年2回、市長寿介護課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、事業所の優れた点や改善してほしい点などのご意見をいただき、さらなるサービスの質の向上に取り組んでいる。	市担当窓口を訪問し、事業所の現況や認知症ケアに関する啓発への取り組みについて伝えていく。市担当者からアドバイスをもらうなど、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開かれている研修会等に参加し、全職員が、身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的被害について学習している。また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十分に理解しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。	全職員が、身体拘束の弊害を理解し拘束のないケアに取り組んでいる。日中、玄関は施錠していない。外出する利用者には、さりげなく声かけを行ったり、職員がともにいったりして、安全面に配慮した支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を読んだり、法人内の勉強会に参加したり、外部研修で学んだりしている。事業所では虐待には格別の注意を払い、また、自宅でも起こらないように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、研修会への参加なども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化した場合や看取り、医療連携体制や退居も含めた事業所の対応可能な範囲などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や家族会等の機会に意見や不満、苦情等を言ってもらえるよう、雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は迅速に対応している。また、玄関やリビングに意見箱を設置し、気軽に意見をいただけるようお願いしている。	家族の来訪時や家族会等で意見や要望等を出してもらっている。出された意見や提案等は、ミーティング時に話しあって迅速に対応し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、年1回無記名のアンケートを行い、職員からの率直な要望や意見を聞く機会を設けている。また、日ごろからコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を聞き、職員の意見を反映させ質の向上に努めている。	管理者は、職員の要望や提案を聞くよう努めている。併設の各事業所の管理者との会議時に、代表者と検討し運営面に反映している。代表者は、事業所に立ち寄り、職員とコミュニケーションを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、管理者や職員一人ひとりが認知症ケアに取り組み、成功体験が得られるようアドバイスや指導を行っている。また、目標を設定して実践し、達成に至った後の達成感を味わい、さらに向上心が高まるよう努めている。また、心身ともに休めるよう休憩室を確保している。職員のやりがいや向上心に配慮したうえで給与を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週に開催している法人内の勉強会で日ごろの取り組みを発表し、他部署の発表から学びを深めている。また、外部の研修会や講演会に参加し、参加できなかった職員も資料や報告書を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、認知症実践者研修を受講し、他事業所との相互訪問による見学や意見交換を行って、同業者の意見や経験を聞く機会を設けている。また、グループホーム協会徳島県支部の研修会への参加を通じて、同業者と交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向きあっている。本人の思いや不安を受け止め、早く信頼関係を築けるよう本人の長所や心の奥にしまっている大事な事柄(当法人では快のキーワードと呼んでいる)を見出すように努めている。また、好きなことや役割などを見出すよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について家族からゆっくり話を聞くようにしている。家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話しあって受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、なるべく柔軟な対応を行い、必要に応じて地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや心の奥底にある苦しみや不安、喜びなどを知ることにも努め、尊敬の念を持って接し、ともに支えあえる関係づくりに留意している。また、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族とともに利用者の日ごろの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を同じ思いでともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用して今までの生活の延長線上であるよう、知人や友人等に会いに行ったり、来訪してもらっている。電話や手紙での連絡を取りもつなど、繋がりが途切れないよう支援している。	利用者の馴染みの友人が来訪してくれたり、利用者自身が知人の家に遊びに行ったりして、継続的な交流を支援している。県外に住む孫に、自分の作品を送ったり、手紙を代筆したりして、繋がりを大切に考えた働きかけを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し、本人が孤立してしまわないように、みんなで楽しく過ごす時間や気のあう者同士で過ごせる場面づくりをするなどの支援している。また、長年培った人とうまく付きあう力や助けあう力、かばいあう力、調整力を発揮できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた方にも、利用者とともに遊びに行ったり、事業所に遊びに来てもらったりしている。また、退居後も家族の相談に応じており、事業所以外の場所で亡くなられた場合も、家族の了解を得て告別式に参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで、利用者をよく観察・対話し、言葉や表情等からその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するように努めている。困難な場合は個別に検討している。	職員は、日ごろの利用者との関わりのなかで、行動や表情等から思いや意向の把握に努めている。利用者自身の思いや意向の表出が困難な場合にも、本人本位に検討し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親戚の面会時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き、利用者との会話から得たエピソードを思い出ノートに書き留めている。その人の好むキーワードを発見するよう努めて職員間で共有し、日ごろの介護に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、生活・心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者と話しあい、それぞれの意見や考えを反映した本人らしく生活できる介護計画を作成している。状態が変化した際には、随時、検討し見直しを行っている。	利用者や家族の思いや希望を聞いたうえで介護計画書を作成している。また、職員の意見も反映し作成している。介護計画書の見直し期間は3か月となっているが、利用者の状況変化等に応じてそのつど検討し見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日ごろの利用者の食事や水分量、排泄等の身体状況、言葉やエピソード、ケアの実践、気づき等の記録をし、情報を共有したうえで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、一人ひとりの満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、近隣の保育園へ働きかけたり、合同行事を企画したりしている。また、消防署員に来ていただき消防の指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にあわせた医療機関の受診に応じている。また、家族の都合にあわせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、精神科医等の他医療機関の受診が得られる環境を整えている。	事業所の協力医療機関のほか、本人や家族の希望するかかりつけ医や認知症専門医、歯科等の受診を支援している。送迎や付きそい等、家族と連携を図ったうえで支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一法人の診療所が協力医療機関となっている。看護師とは気軽に相談できる関係ができており、日ごろの健康管理や医療面での相談や助言、対応を行っている。診療所とは内線で繋がっており、密に連携をとれる体制が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報やかかりつけ医からの病状に関する情報を医療機関に提供し、積極的に職員が見舞うようになっている。また、家族とも情報交換したうえで回復状況等を把握し、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、なるべく早期から本人や家族、かかりつけ医を含めケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。急変した場合にはすぐ対応していただけるよう、医療機関とも密に連携を図っている。	やむを得ず重度化に至った場合には、本人や家族の意向を尊重し、安心して終末期を迎えることができるよう、医師や看護師、職員間で連携し支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の医師や看護師の迅速な協力を得られるよう緊急時の連絡体制を確立している。また、緊急対応時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。同法人の看護師の協力のもと、職員全員が応急手当てに関する方法を体験・習得するようになり、市消防署で開催される普通救命講習を受講したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと消防避難訓練と避難経路の確認を年2回、消火器の取り扱い訓練を年2回行っている。地域の消防分団に協力を呼びかけており、合同での消防避難訓練を実施している。また、今年度より地域の自主防災組織に参加し、自治会への出席や地域の避難訓練に利用者とともに参加したりして、地域との協力体制を築くようにしている。	年2回、避難訓練を実施しておりマニュアルも整備している。地域の自主防災組織に参加している。また、近隣の消防分団との協力体制を構築している。非常用の食料や飲料水、備品等の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の必要な時は、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけ、一人ひとりの人格を尊重している。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行っている。	利用者の情報は、本人や家族の同意を得たうえで取り扱っており、責任を持って管理している。情報の個別性や守秘義務についても理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろの生活において些細なことでも本人が決める場面をつくり、また、言葉がなくとも利用者一人ひとりの思いや意図をくみ取り、本人が自分の意志で物事を決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、買物や散歩、カラオケなど積極的に個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣にあわせた支援をし、特に行事等の際には化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。洋服を買いに出かけたり、本人の馴染みの美容院で希望にあわせたカットやパーマ、毛染めをしてもらえるよう、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とともに買物に行き、下ごしらえや盛り付けなどの調理を利用者一人ひとりの力を活かしながら、行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで会話をし、楽しい雰囲気のある食事時間となるよう努めている。	利用者一人ひとりの能力に応じた食事づくりを楽しんでいる。献立は、利用者の希望を取り入れて作成している。併設事業所の栄養士が摂取量等に配慮している。また、近隣に農家が多いこともあり、旬の野菜や果実等を提供してくれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し、職員間で情報を共有している。また、法人内の管理栄養士に、栄養バランスや一人ひとりの状態にあわせた食事内容等の専門的アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行ったりしている。就寝前には義歯の洗浄を行い、必要に応じて洗浄剤に浸すなど清潔の保持に努めている。歯科の訪問口腔ケアを導入し、歯科衛生士の指導のもと歯茎のマッサージなどの歯周病についての口腔ケアを受けている方もいる。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			ユニット1		
			実践状況	実践状況	
			次のステップに向けて期待したい内容		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意・便意のサインを敏感にとらえ、さりげなく声かけ誘導を行うことによりトイレで排泄できるよう支援している。	排泄を失敗した際には、利用者の自尊心に配慮した支援を行っている。また、他の利用者には知られることのないよう留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、排便の有無を確認している。日ごろから便秘にならないよう水分補給を行ったり、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、家事活動や体操の時間などで身体を動かす機会を適度に設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせて入浴できるように毎日準備し、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。入浴を拒む方には、声かけや対応の工夫をしている。また、同性による介助にも配慮している。	毎日、入浴できる体制を構築している。夜間の入浴を希望する利用者もいるため、一人ひとりの希望に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。入浴を拒む方には言葉かけを工夫するなどして、利用者一人ひとりの気持ちに応じた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調や表情などを考慮して、休息がとれるよう支援している。また、夕方から穏やかに安心して時間の過ごし方に取り組み、就寝にむけて気持ちが安定するよう工夫している。寝付けない時には、添い寝をしたり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりするなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用法、用量について理解し、確実に服薬できたか確認するようにしている。また、薬の処方などが変更された時には特に注意して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、食事づくりや裁縫、畑仕事、掃除、書道、肩たたき、洗濯たたみなど、役割を楽しめる場面をつくっている。また、遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって日常的に畑仕事や散歩、買物、ドライブなど戸外へかけている。また、利用者の希望をふまえ初詣や花見、海を見にいたり、季節ごとの外出行事を計画している。遠方への外出については、本人の希望を家族に伝え、協力を得て親戚の家へ出かけたりされている。	敷地内の畑仕事や花壇の手入れを行ったり、散歩や買い物に出かけたりしている。季節ごとに、花見や初詣に出かけている。また、重度の利用者の移動等に配慮した外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。家族からお金を預かり、事務所が管理している利用者には、買い物時にはお金をお渡しして自分で払っていただけるよう支援している。預かり金は使途を控えておき、毎月家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎの支援を行い、事務所の電話を使用してもらい、他の利用者さんに会話が聞こえないようにしている。手紙や電話を歓迎し、返事の手紙を出せるように支援したり、利用者の希望に応じて日常的に電話をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を整え、家庭的な雰囲気、居心地がよく活気ある生活ができるよう配慮している。茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおいて五感に働きかけ、観葉植物や季節の花を飾って、季節感を取り入れている。	利用者の目線にあわせて、低い位置にトイレや居室の表示をするなどの配慮を行っている。対面型のキッチンでは、利用者が集って作業できる環境となっている。卓上に季節の花を飾るなどして、居心地のよい雰囲気づくりに留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いてあり、気のあう人同士が語り合えるスペースを設けている。玄関先に設置したベンチでくつろいだり、思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者を使い慣れた家具や書道用具などを持ち込み、思い出のアルバムや湯飲み、カップ、本人が作った作品や花などを思い思いに飾っている。据え付けのベッド等は本人の好みにあわせた配置にしている。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や小物等を多数持ち込んでもらっている。事業所の備えつけの家具のみを設置したシンプルな居室もあるが、一人ひとりの好みで自分らしく居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて、環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は職員間で話しあい、本人の不安や混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。職員の入職時には必ず理念を伝え、理解してもらうようにしている。また、ミーティング時や関わりの振り返りの時にも理念に必ず触れ確認しあうようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者とともに、近隣の保育園の運動会や毎月の老人会の定例会に参加し、地域の高齢者の方々と交流を図っている。日常的に散歩や買い物へ出かけ、近隣の人たちと挨拶を交わし互いに行き来する間柄になっている。また、地域の草抜きや清掃活動、ヒマワリ・コスモスの種蒔きに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護実践者研修や看護学生、高校生の実習生の受け入れを積極的に行っている。また、老人会や運営推進会議では、認知症についてや支援の方法を話して理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地元民生委員や自治会役員など地域の方も参加している。現在事業所が取り組んでいる内容について報告し、アドバイスや質の向上のため双方向的な意見交換を行っている。また、前回の会議で取り上げられた検討事項やアドバイスについて、その経過を報告し、一つひとつ実績を積み上げていくようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が月2回の頻度で訪問しており、利用者との談話や相談、ケア現場の見学を行っている。年2回鳴門市長寿介護課職員を含めた介護相談員報告会が開かれ、事業所の優れた点や改善してほしい点などのご意見をいただき、さらなるサービス向上に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で開かれている研修会等に参加し、職員全員が身体拘束によって利用者が受ける身体的、精神的弊害について、また、介護保険法にある禁止対象となる具体的な行為について十二分に理解しており、拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を読んだり、法人内の勉強会に参加したり、外部研修で学んだりしている。事業所では虐待には格別の注意を払い、また、自宅でも起こらないように留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会あるごとに、書籍やリーフレットなど、関連資料を読み理解を深めるよう努めている。また、研修会への参加なども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をとって丁寧に説明し、利用料金や起こりうるリスク、重度化した場合や看取り、医療連携体制や退居も含めた事業所の対応可能な範囲などについて詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来訪時や家族会などでつねに意見や不満、苦情など何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望へは迅速に対応している。また、玄関やリビングに意見箱を設置し、気軽に意見をいただけるようにお願いしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は年1回無記名のアンケートを行い、職員からの率直な要望や意見を聞く機会を設けている。また、日ごろからコミュニケーションを図るように心がけ、意見や提案を聞き、職員の意見を反映させ質の向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は管理者や職員一人ひとりが認知症ケアに取り組み、成功体験が得られるようアドバイスや指導を行っている。また、目標を設定し、努力し、それが達成されて達成感を味わい、さらに向上しようとする向上心が強まるように努めている。また、心身ともに休めるよう休憩室を確保している。給与も他事業所に負けないくらいの水準にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週に開催している法人内の勉強会で日ごろの取り組みを発表し、他の部署の発表から学びを深めている。また、外部の研修会や講演会に参加し、参加できなかった職員にも資料や報告書を閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、実践者研修を受講し、他事業所との相互訪問による見学や意見交換を行い、同業者の意見や経験を聞く機会を持っている。また、グループホーム協会徳島県支部の研修会への参加を通じて、同業者との豊富な交流機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった時は、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向きあっている。本人の思いや不安を受け止め、早く信頼関係を築けるよう本人の長所や心の奥にしまっている大事な事柄(当法人では快のキーワードと呼んでいる)を見出すように努めている。また、好きなことや役割などを見出すよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について家族からゆっくり話を聞くようにしている。家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをして、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、なるべく柔軟な対応を行い、必要に応じて地域包括支援センターや他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや心の奥底にある苦しみや不安、喜びなどを知ることにより、尊敬の念を持って接し、ともに支え合える関係作りに留意している。また、利用者の得意分野で力を発揮してもらい、お互い様という気持ちや感謝するという関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とともに利用者の日ごろの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を同じ思いでともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事業所を利用して今までの生活の延長線上であるよう、知人や友人などに会いに行ったり、来訪してもらっている。電話や手紙での連絡を取り持つ等、繋がりが途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮し、本人が孤立してしまわないように、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなどの支援している。また、長年培った人とうまく付きあう力や助け合う力、かばいあう力、調整力を発揮できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた方にも、利用者とともに遊びに行ったり、事業所に遊びに来てもらったりしている。また、退居後も家族の相談に応じており、他所でご逝去された場合も家族の了解を得て告別式に参列させていただいたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりの中で、利用者をよく観察・対話し、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、思いや希望を把握するように努めている。困難な場合は、別個に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親戚の面会時に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き、それを職員間で共有し日ごろの介護に生かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、生活・心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、関係者と話し合い、それぞれの意見や考えを反映した本人らしく生活できる介護計画を作成している。状態が変化した際には、随時検討し見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は、日ごろの利用者の食事や水分量、排泄などの身体状況および言葉やエピソード、ケアの実践、気づきなどの記録をし、情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援は柔軟に行い、一人ひとりの満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、近隣の保育園へ働きかけたり、合同行事を企画したりしている。また、消防署員に来ていただき消防の指導を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望にあわせた医療機関の受診に応じている。また、家族の都合にあわせた通院介助に努めており、法人内の医師をはじめとして、精神科医等の他医療機関の受診が得られる環境を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の診療所が提携医療機関となっている。看護師とは気軽に相談できる関係ができており、日ごろの健康管理や医療面での相談や助言、対応を行っている。診療所とは内線につながっており、密に連携をとれる体制が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報やかかりつけ医からの病状に関する情報を医療機関に提供し、積極的に職員が見舞うようにしている。また、家族とも情報交換しながら回復状況等を把握し、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について、なるべく早期から本人や家族、かかりつけ医を含めケア関係者と話し合いを繰り返し、対応方針の共有を図っている。また、状態の変化があるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。急変した場合にはすぐ対応していただけるよう、医療機関とも密に連携を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関の医師や看護師の迅速な協力を得られるよう緊急時の連絡体制を確立している。また、緊急対応時のマニュアルを整備し、周知徹底を図っている。同法人の看護師の協力のもと、職員全員が応急手当に関する方法を体験・習得するようしたり、市消防署で開催される普通救命講習を受講したりしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと消防避難訓練と避難経路の確認を年2回、消火器の取り扱い訓練を年2回行っている。地域の消防分団に協力を呼びかけており、合同での消防避難訓練を実施している。また、今年度より地域の自主防災組織に参加し、自治会への出席や地域の避難訓練に利用者とともに参加したりして、地域との協力体制を築くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助の必要な時は、まずは本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけ、一人ひとりの人格を尊重している。また、プライバシーの保護の徹底や個人情報の漏えい防止を事業所全体で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろの生活において些細なことでも本人が決める場面をつくり、また、言葉がなくとも利用者一人ひとりの思いや意図をくみ取り、本人が自分の意志で物事を決められるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態に配慮しながら、その時の本人の気持ちを尊重し、買物や散歩、カラオケなど積極的に個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの生活習慣にあわせ支援をし、特に行事等の際には化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。本人の馴染みの美容院で、希望にあわせたカットやパーマ、毛染めをしてもらえるよう、支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員とともに買物に行き、下ごしらえや盛り付けなどの調理を利用者一人ひとりの力を活かしながら、行っている。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで会話をし、楽しい雰囲気の食事時間となるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況をチェック表に記入し、職員間で情報を共有している。また、法人内の管理栄養士に、栄養バランスや一人ひとりの状態にあわせた食事内容等の専門的アドバイスをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、力に応じて職員が見守ったり、介助を行ったりしている。就寝前には義歯の洗浄を行い、必要に応じて洗浄剤に浸すなど清潔の保持に努めている。歯科の訪問口腔ケアを導入し、歯科衛生士の指導のもと歯茎のマッサージなどの歯周病についての口腔ケアを受けている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意・便意のサインを敏感にとらえ、さりげなく声かけ誘導を行うことによりトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記録し、排便の有無を確認している。日ごろから便秘にならないよう水分補給を行ったり、繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。また、家事活動や体操の時間などで身体を動かす機会を適度に設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に合わせて入浴できるように毎日準備し、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。入浴を拒む方には、声かけや対応の工夫をしている。また、同性による介助にも配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。一人ひとりの体調や表情などを考慮して、休息がとれるように支援している。また、夕方から穏やかに安心して時間の過ごし方に取り組み、就寝にむけて気持ちが安定するよう工夫している。寝付けけない時には、添い寝をしたり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりするなど配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりが服用する薬の目的や副作用、用法、用量について理解し、確実に服薬できたか確認するようにしている。また、薬の処方などが変更された時には特に注意して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるよう、食事づくりや裁縫、畑仕事、掃除、書道、肩たたき、洗濯たたみなど、役割を楽しめる場面をつくっている。また、遠出の外出や地域の行事参加などの楽しみごとを利用者と相談しながら行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって日常的に畑仕事や散歩、買物、ドライブなど戸外へかけている。また、利用者の希望をふまえて初詣や花見、海を見にいたり、季節ごとの外出行事を計画している。遠方への外出については、本人の希望を家族に伝え、協力を得て親戚の家へ出かけたりにされている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望と家族の協力を得て少額のお金を持っている方もいる。家族からお金を預かり、事務所が管理している利用者には、買い物時にはお金をお渡しして自分で払っていただけるよう支援している。預かり金は使途を控えておき、毎月家族に確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎの支援を行い、事務所の電話を使用してもらい、他の利用者さんに会話が聞こえないようにしている。手紙や電話を歓迎し、返事の手紙を出せるように支援したり、利用者の希望に応じて日常的に電話をしたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって不快な音や光が入らないよう共用空間を整え、家庭的な雰囲気、居心地がよく活気ある生活ができるよう配慮している。茶碗を洗う音やご飯の炊けるにおいて五感に働きかけ、観葉植物や季節の花を飾って、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いてあり、気のあう人同士が語り合えるスペースを設けている。玄関先に設置したベンチでくつろいだり、思い思いに過ごせる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者が使い慣れた家具や書道用具などを持ち込み、思い出のアルバムや湯飲み、カップ、本人が作った作品や花などを思い思いに飾っている。据え付けのベッド等は本人の好みにあわせた配置にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」を追求し、状況に合わせて、環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は職員間で話しあい、本人の不安や混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。		